

吉備国際大学研究紀要
(人文・社会科学系)
第26号, 77-90, 2016

プレゼンテーションソフトを活用したコミュニケーション行為 による道徳性変容と自己意識の高まりへの効果

—大学生の講義アンケート結果からの検証—

作田 澄泰*・倉知 典弘**

**Effect of Communication Using Presentation Software On Transformation of morality
and Improvement of sence of self**

—From analysis of questionnaire of students on lecture

Kiyohiro SAKUDA*, Norihiro KURACHI**

Abstract

We research how morality of students, who belong to Teacher-training course, transforms by communication with presentation software. Firstly, in the lecture, students described their personal history using presentation-software. After that, they talked about their personal history in pairs and in group. At this time, we instructed students to refer the rule of discussion that Habermas suggested. After that lecture, We conducted a questionnaire about transformation of sence of self, communication and so on. We analyzed that questionnaire and students' slides. Conclusion of this research is that: through describing their personal history and communication using presentation software in the rule of discussion on habermas' communication theory within group consisted of 4 persons (male 2, female 2), students' morality and self-esteem is most improved.

Key words : Sense of self, communication, Transformation of morality, self-esteem,
Transformation of Ethical values

キーワード : 自己意識, 意思疎通, 道徳性の変容, 自己肯定感, 道徳的価値観の変容

* 早稲田大学教師教育研究所
〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1番地
WASEDA University Institute of Teacher Education
1-6-1, Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo Capital, JAPAN (169-8050)

** 吉備国際大学社会科学部スポーツ社会学科
〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町8
Sports social department, School of Social science, KIBI International University
8, Iga-machi, Takahashi-shi, Okayama, JAPAN (716-8508)

1. はじめに

本論は、大学の講義の中でいかに道徳性を高める講義を行いうるかを検証するものである。本論の執筆は、研究の前提となる箇所の執筆（1, 2）を倉知が行い、具体的な実践結果の分析（3, 4, 5）は作田が行った。また、本論の執筆に当たっては作田がベースとなる分析結果などの原稿を執筆し、その意図を倉知が解釈しながら新たな文章を作成している。

本論に入る前に、本研究の背景を道徳性の変容をとらえる重要性と自己意識をとらえることの意義を述べ、本論の意義を明らかにする。

(1) 道徳性の変容

グローバルゼーションをはじめとする急速な社会変動は否応なしに人が成長するための空間を大きく変容させている。高橋勝は子どもが自己を形成していく空間を「自己形成空間」と呼び、「子どもがさまざまな他者・自然・事物とくかわりあう」なかで徐々に形成されてくる意味空間であり、相互に交流しあう舞台である¹⁾と定義したが、現代社会はまさにこの「自己形成空間」を大きく、かつてないスピードで変容させているということができるだろう。この加速度的かつ大きな社会変動は、生涯にわたった自己変容を余儀なくされるという意味での「生涯学習社会」の出現をもたらしている。1965年に「生涯教育」を提起したラングランは、人間に対する挑戦の一つとして加速度的変化を挙げるとともに「生活様式と人間関係における危機」をあげ、従来の慣習、型の継承が難しい社会になっていることを指摘した²⁾が、このことは従来の「抑圧的な慣習」から自由になる可能性を示唆する一方で、ライフスタイルや価値観を絶えず問い直すことが強く求められる社会に我々がいることを示唆してもいる。本論のテーマである道徳性に引き付けて述べるならば、従来のような規範がもはや有効性を持たなくな

る中で、新たな規範を絶えず探求することが求められる「脱慣習化の社会」に我々はいるといえることができるだろう。このような観点から見ると、教育実践における学習者（学生）の道徳性の変容の過程をとらえるということは、教育実践が道徳性の変容に与える影響を明らかにすることであり、これからの社会の中で、学校教育現場においてどのような実践が求められるかを明らかにすることにつながるだろう。

(2) 自己肯定感をめぐる問題

次に本論の課題とする自己意識、特に自己肯定感について述べる。

かつて「人権教育の指導方法等の在り方について（第3次とりまとめ）」において以下のように述べた。「[自分の大切さとともに他のひとの大切さを認めること]ができるということが、態度や行動にまで現れるようにすることが必要である。すなわち、他の人とともによりよく生きようとする態度や集団生活における規範等を尊重し義務や責任を果たす態度、具体的な人権問題に直面してそれを解決しようとする実践的な行動力などを、児童生徒が身に付けられるようにすることが大切である。」確かに、このとりまとめについては批判が多いことも事実であるが、人権を尊重するという価値観を身に付けるためには、「自分の大切さ」を認めるという自己肯定感を持つことが重要であるという原則を確認したことの意義は大きいと考える。また、『生徒指導提要』にも同様に生徒指導を行う際の留意点として「自己存在感」を与えることと述べられているが、これは自己実現を果たしていくための自己指導能力の獲得の前提条件として位置づけられていることを意味している。自己実現を果たすためには、道徳性の形成を必要とすることを踏まえれば、自己肯定感は道徳性の基礎を培うということもできよう。

以上のように自己肯定感と道徳的価値観は密接に

関連していると考えられるが、一方で現代社会の在り方が変容する中で、この自己肯定感が奪われている事例が多くみられる。

貧困問題に取り組んでいる湯浅誠は「個人的貧困状態の背景には、社会構造的背景がある」として5つの排除を提起する。それは、①教育課程からの排除、②企業福祉からの排除、③家族福祉からの排除、④公的福祉からの排除、⑤自分自身からの排除である³⁾。加えて、湯浅誠は、アマルティア・センの提起する潜在能力 (capability) を参照しつつ、貧困は「総体的な“溜め” (capacity) がない状態」と定義している。この湯浅の議論で注目すべきは、「(精神的な) 溜め」が社会構造の中ではなく奪われる中で「意欲の貧困」が生起するという点であろう。この「(精神的な) 溜め」は、「失敗が存在の危機へとつながらないため」に必要なものである。この「精神的な溜め」には「根拠のない自信」が含まれていると考えられる⁴⁾ が、これこそが自己肯定感であろう。貧困に陥らないまでも、すでに社会構造の中で精神的な溜めを奪われつつある学生も存在すると考えられる。そのような現状の中で、教育実践において自己肯定感を獲得することができるのであれば、現代社会の中で自己肯定感を失うこともなく、道徳的価値観を形成することも可能になるのではないだろうか。本論は、その具体的な方法の有効性を検証するものとなりうるだろう。

2. 研究目的

本研究においては、大学における講義の一部を道徳性を向上させる教育実践として位置づけ、それを分析したが、その教育実践を構成する要素について簡潔に述べ、教育実践の意図を明確にしておきたい。

(1) 「ものがたる」という教育実践

今回の教育実践においては、自分の歴史 (自分史)

を振り返るといふ実践を行ったが、その意義を改めて確認しておきたい。

自分史という学習は、成人を主な対象とする社会教育の領域では中心的な実践として数多くの実践が積み重ねられてきた。特に、夜間中学校における識字教育の実践は、世界的に見ても重要な実践としてとらえることができるものである。加えて、理論的にも「自分史」は重要な実践として位置づけられている。

成人に対する教育方法を問う学問領域 (実践領域) を成人教育学というが、その成人教育学の中で重要な位置を占めるパトリシア・クラントンは大人の学習の特徴を子どもの学習と比較して、「変容 (transforming)」ととらえ、その変容を促す教育方法を提起した。彼女は、多様な方法の一部として「伝記教育」を位置づけた。そして、ただ伝記を書くだけではなく、小グループの中で討議を行うことで、自分自身の価値観の前提に気付くことが可能になり、変容がもたらされると考えている。つまり、自分史を書くという行為が、自分の人生を「過去・現在・未来」という「一つの物語」に紡ぎあげていく中で、自分自身を構築してきたものに気付いていく。そのうえで、それを共有することにより、外部の視線を入れ、再構成すること。これが自分自身のエンパワーメントにつながっていくこと。これが変容的学習や社会教育における実践として追求されてきたものである。これは、青年期を迎えている大学生の自己肯定感を向上させるためにも有用であると考えられる。

(2) 「ものがたる」教育実践の前提条件としてのコミュニケーション

このような「ものがたる」実践の前提条件として、グループが協力的な関係を構築していること及びコミュニケーションが円滑に実践されていることがある。となると、そもそもコミュニケーションの能力

を身に付けていることが必要になるが、実際学生はコミュニケーションについてどのような認識をもっているのだろうか。

平成25年6月に作田が講義を行った大学生を対象に意見を聞いたところ、大半において、コミュニケーションが苦手であるとの回答があった。その理由として、「何をどのように話したらいいかわからない」「初対面で話しにくい」などの意見があり、話す相手に気がつかったり、自分の思いを十分に伝えることができなかつたりすることが多いと推測される。このようなコミュニケーション能力に対する否定的な感覚を持つ学生が「ものがたる」実践を行う際には、留意が必要となる。「自分史」を用いて学ぶためには、書いた「自分史」がそのグループの中で受け入れられることが前提となるのであり、それがなければ、自分の人生をさらけ出すような「危険な賭け」に出ることはためらわれるであろう。学習者の人生が否定されることがないように心がけること、これが教育実践の上で必要不可欠である。

そのため、真のコミュニケーション行為とは、相手との対面で会話し、互いに納得のあるルールのもと、了解⁵⁾を得てはじめて、成立するものと考えたうえで、ハーバーマスの理論をもとにした「話し合いのルール⁶⁾」を提示し、それを学生に守ってもらった。話し合いのルールは以下のとおりである。

- ①誰も自分の意見を言うことを邪魔されてはならない
- ②自分の意見は理由をつけて言う
- ③他のひとの意見にははっきりと賛成か反対かの態度を表明する。その際、理由をはっきり言う
- ④理由が納得できたらその意見は正しいと認める
- ⑤意見を変えてもよい
- ⑥みんなで納得する理由を持つ意見は、みんなですれに従わなければならない

(3) プレゼンテーションソフトの利用

今回は自分史の作成及びその発表のためにプレゼンテーションソフトを用いた。これは、教職総合演習の中での報告に使うという講義構成上の意図もあるが、それ以上にプレゼンテーションソフトが持つ編集のやりやすさもある。プレゼンテーションソフトは、箇条書きで表記し、その順序を再構成し、階層化して提示することを得意とするソフトウェアである。そのことが、自分史を構成するうえで手助けになると考えた。

以上のようにプレゼンテーションソフトを用いた「自分史」の学習は、自己肯定感を向上させることができる実践であり、そのことが道徳性の向上に寄与すると考えられる。以上の観点から、教育実践を組織し、その成果をアンケート調査などで明らかにした。

3. 研究方法

教職総合実践演習の講義内において、下記の要領で講義を行い、大学生からのアンケート結果をもとに、自己意識の高まりと道徳性の変容について分析・検証した。

(1) 講義内容の実際

まずはじめに、プレゼンテーションソフト使用方法の説明を行い、「過去の自分と現在の自分」についてのスライドを作成するよう指示する。そして、大学生各自が過去の自分を分析しながら、スライドを作成する。作成したスライドをもとに、ハーバーマスのコミュニケーション行為理論を参照したルールを周知し、コミュニケーションを行った。その際に、会話の形態を変え、道徳観の変容について検証した。

対象は、岡山県内の大学3年生、男性21名、女性13名、合計34名で講義を行った。教職総合実践演習

15時限（90分/時限）のうち、2時限分を集中講義として行った。実施時期は、2013年6月中旬である。

(2) 授業（演習）の実際

授業の展開は表1に示す通りであり、次のように実施した。

- (1) 導入：教員志願者を目的とした意識確認を行い演習に入った。
- (2) 過去の自分を分析し、今まで歩んできた自分の人生について考えさせ現在のおかれている状況を省みてどのような職を目指したいのか理由を述べ、ワークシートにまとめた。また、自分がこれから目指そうとしている方向性と理由についてワークシートにまとめた。
- (3) プレゼンテーションソフト使用の説明を行い、要点ごと（小学校、中学校、高校など）にスライドをつくること、その時点において、心に残ったこと、きっかけとなったことなどに留意して、今の自分自身をつくりあげてきた点についての詳細をスライドにまとめること、また、何のために大学へ入学し、今後どのような職業を目標とし、どのような人生観を描いているのか、理由も含めて書くことを指示した。その際に、自分がどうしても思い出したくない過去や他に告げたくない点については、スライドに表示しないことを留意させた。

また、大学へ進んだ目的と教職を志願する理由について、今後自分の目指す方向性を明確にすることができるように指示する。

次に、スライド作成の進捗状況を把握し、互いのスライドを共有するために、一人に他の全員（33名分）の作成したスライドを参照させた。その後、自分自身の作成したスライドと比較させ、自問自答しながらスライド作成を行わせた。その際に修正箇所があれば、修正を加えてもよいこととした。スライドを作成した後、下記の

点に留意し、感想をワークシートに記入させた。

- ① 自分がスライドを作成していく過程での変化する気持ち
- ② 他者と自分とを比較した自己内対話
- (4) 小グループ（2名～4名）に分かれ、先述した「話し合いのルール」を周知し、作成したスライドをもとに会話を行った。
- (5) はじめに、2名での会話（異性同士）での小グループで、各自がスライドを見せながら、自分自身の「過去の自分と現在の自分」について、比較させながら人生観を話す。その後、一人ずつ互いの意見を述べ、ルールに基づいて質問、論議を行う。論議する際に、ハーバーマスの言う納得のいくコミュニケーション行為「了解」が成立するよう周知する。互いに話し合った後の感想を、ワークシートに記入させた。
- (6) 次に4名での会話（男性2名と女性2名）での小グループで、各自がスライドを見せながら、(5)と同じ要領で会話、質問、論議を行う。その後、話し合った感想をワークシートに記入させた。
- (7) 自分の評価する話し合いを記入させ、理由も述べ、ワークシートに記入させた。
- (8) 本時のコミュニケーション行為において、一番嬉しかった言葉がけについて、具体的にどのような場面でどのような点が心に残ったのかについてワークシートに記入させた。
- (9) プレゼンテーションソフトを活用して、どのような利点があったのか、具体的にどのような場面でそう思ったのか、ワークシートに記入させた。
- (10) 講義を終えてみて、どのような会話ができれば、道徳的価値が深まるのかについて、会話の仕方等も含め、具体的にワークシートに記入させた。
- (11) 講義を終えた後、プレゼンテーションソフトを活用した自己省察とコミュニケーションの効果について意見交流し、本時の振り返りを行った。

表1 指導案

指導者 作田澄泰

	学習活動	指導者の主な発問○と予想される学生の反応(・)	指導上の留意点 支援○ 評価☆印
導入	(1) パワーポイント活用方法の説明を聞く。 自分の過去を振り返り、今後の見通しについてワークシートに記入する。	○今までの自分の過去を振り返ってみて、歩んできた人生観について考えてみましょう。 ○現在の自分自身を省みて、今後どのような道を目指そうとしていますか。 ・教職に就きたい。 ・教職に就きたいという気持ちはあるが、教師にふさわしいか悩んでいる。 ・どうしたらよいか、分からないでいる。	○自分が将来描いている、教職を含む職業観について、現在の気持ちをメモするよう助言する。 ○指導者の体験談を交え、自分の過去と今後の見通しがもてるようアドバイスする。 ○パワーポイント作成説明レジュメを用意する。
展開	(2) 過去の自分を分析し、今日に至るまでの過程をスライドにまとめる。 ○小、中、高校、予備校等での出来事や影響を受けたことなど、具体的にまとめる。 ○何のために大学へ入学し、将来どのような職業に就き、どのような人生観を描いているのか、具体的にまとめる。	○今までの自分の歩んできた姿をありのままにスライドにまとめてみましょう。 ・過去に自分が道に悩んだとき、相談にのってもらった先生に影響を受け、教師になろうと思った。 ・将来、教師になりたいという気持ちはあるが、本当に自分がふさわしいかどうか不安だ。 ・自分の夢は、教師になることだ。絶対に、夢は叶える。 ・今までに、小、中、高と学んできたが、自分が将来、教師を目指すべきか、どうすべきか分からないでいる。	○過去の自分を振り返りやすくするために、小、中、高、予備校等ごとにスライドを作成するよう助言する。 ○将来の職業観について、自分の今の本心をありのままにスライドにまとめるよう助言する。 ○想起したくない過去や出来事には無理にふれないよう留意する。 ☆過去の自分をありのままに分析し、スライドで表現しようとしている。(スライド、行動観察)
	(3) スライド作成後の感想を記入する。	○スライドを作成してみて、今の自分の気持ちをワークシートに記入しましょう。 ・今の自分の気持ちに整理がついた。 ・今後の見通しについて考えさせられた。	○スライド作成直後の率直な感想を述べるよう助言する。
	(4) 作成したスライドを活用し、「話し合いのルール」によって話し合いをする。 ※グループになり、一人ひとりがパワーポイントで説明後、輪になって話し合う。 A. 2名での会話 (異性同士) B. 4名での会話 (男性2名と女性2名) 各々の会話の感想をワークシートに記入する。	○作成したスライドを用いて、話し合いのルールに基づいて話し合いましょう。 ハーバーマス理論を参照にした「話し合いのルール」 ① 誰も自分の意見を言うことをじゃまされてはならない。 ② 自分の意見は理由をつけて言う。 ③ 他の人の意見にははっきりと賛成か反対かの態度を表明する。その際、理由をはっきり言う。 ④ 理由が納得できたらその意見は正しいと認める。 ⑤ 意見を変えてもよい。 ⑥ みんなで納得する理由をもつ意見は、みんなですらに服わなければならない。 ・異性よりも同性の会話の方が参考になった。 ・異性が交わった方が、新しい意見が聞け、参考になった。	○話し合いのルールを拡大したものを厚紙のボードで提示し、ルールが確実に把握できるよう周知する。 ○話し合いの方法について、手順に沿って行えるよう、巡視して助言する。 ○互いに説明と質問を確実にするよう助言する。 ○相手の触れたくない点を無理に質問することのないよう助言する。 ☆A,B 両方の会話から、新たな道徳的価値を見出そうとしている。 ☆互いの良さを見つけようとしている。(行動観察、ワークシート)
	(5) 自分の一番評価する話し合いを記入し、理由を書きましょう。	○一番評価する話し合い、嬉しかった言葉がけを書きましょう。また、理由を書きましょう。	○自分の正直な気持ちを書くよう助言する。
終末	(6) パワーポイントを活用しての利点を書く。 (7) 今後の会話方法の見通しについて、意見を書く。	○今日の講義を終えて、パワーポイント活用の利点と今後の会話の見通しについて、ワークシートに記入しましょう。	○自分の思いをありのままに書き、互いの会話の良さを共感できるよう助言し、今後の人生生活に生かされるようにする。

4. 結果と考察

本実践において、スライドを作成することにより、各自今までの歩んできた道と道徳観について、肯定的に振り返ることができたと思われる。教職課程の学生ということもあり、教職への志はあるものの、スライドへの作成段階や話し合い途中において、今までの自分の行いや今後の未来を深く考え直す場面も伺われた。

(1) スライド作成前の将来像への意識

次にスライド作成直前に自分を振り返るアンケートを行った結果、表2のような意見が出された。(一部抜粋)

表2 <スライド作成前の将来像への意識>

<p>(女学生の回答)</p> <p>① 私の人生は、何も考えてなく、その場で考える人生だと思う。教職に就きたい。</p> <p>② 過去を振り返ることによって、将来についてもう一度考えるきっかけになった。もっと頑張ろうという気持ちが強くなった。</p> <p>③ 私立大学に行かせてくれた親に感謝。</p> <p>④ 今までに指導してもらった先生以上の教師になりたい。</p> <p>⑤ 子どもを理解できる職に就きたい。子どもの手助けがしたい。</p> <p>⑥ 方向性は不安。高校の頃は夢を描いていた。あの頃に戻りたい。</p> <p>⑦ 今まで、「今がよければすべてよし」の精神でできていたが、大学に入り、先のことをちゃんとみていかないといけないと思った。</p> <p>(男学生の回答)</p> <p>⑧ 小学校の教師を目指しているが、最近の方向性が具体的ではなく、努力があまりできない状態になっている。自分の中での目標の欠落。</p> <p>⑨ 自分は野球ばかりしてきたので、スポーツを生かした職に就きたい。</p> <p>⑩ やさしい幼稚園の先生と出会い、その先生にあこがれて今の私がここにいる。これから目指す先生は、自然の中で子どもたちを保育していく先生です。</p> <p>⑪ 今までの自分は野球ばかりで、勉強を中途半端にしてきたので、指導者に必要なものを今後、身に付けることが大切だと実感した。</p>
--

- ⑫ 私は今まで、多くの先生方の言葉によって支えられてきた。苦しい時、嬉しい時、先生方はいつでも支えてくれました。一つの言葉でこんなにも子どもに力と影響を与えることができる教師という仕事に就きたいと思いました。だからこそ、教師を目指します。
- ⑬ 体育の教師の採用が少なく、狭き門だということは分かっているが、自分は部活動で野球部の監督になることが夢なので、教職課程を履修している今、あきらめるわけにはいかない。
- ⑭ とても山が大きく、谷も深いような人生でした。教職を目指したいが取得が厳しいのが現実です。でも、絶対にとりたい。
- ⑮ 自分も両親のような教師になりたいと思う。

教職課程ということもあり、自分の描く将来像を強くもっている(①⑤⑬)ことが伺われた。一方、今日の気持ちと難関である教職ということもあり、未来に不安を抱えた面(⑥⑧)が多々伺われた。男女に関わらず、自分の過去を振り返ることで、今後の意欲向上への念が培われたようであった。また、過去に指導してもらった教師との出逢いや親の姿からの志など、過去に出逢った人物による思い(④⑩⑫⑮)も出されていた。

(2) スライド作成後の道徳性の変容

スライド作成後にアンケートを行った結果、次のような意見が出された。(一部抜粋)

表3 <スライド作成後の将来像への意識>

<p>(女学生の回答)</p> <p>① 人に分かりやすく意識して作ったつもりが、簡単にまとめすぎて内容が薄くなった。</p> <p>② 過去のことを思い出したり、これからについて考えたりして、自分自身とよく向き合えた。</p> <p>③ 思っていたよりスライドを作るのが難しかった。でも、過去を思い出すことができてよかった。</p> <p>(男学生の回答)</p> <p>④ 知らない機能がたくさんあり、どのようにすると相手に伝わるのか考えさせられた。</p> <p>⑤ 自分の過去のこと、将来のことなので、すらすらと作ることができた。パワーポイントもうまく扱うことができた。</p> <p>⑥ 自分が思うようにはいかず、パワーポイント</p>

- の使い方をもっと勉強すべきだと思った。
- ⑦ パワーポイントを活用して、うまく相手に伝えられた。

スライド作成後、女性1名から「過去のことを思い出されてよかった」(③)の回答が得られたものの、ほとんどの回答がパワーポイント活用に関する記述であり、また、スライド作成を行うにあたって、相手意識(①④⑦)が培われてはいるものの将来への不安感は改善されなかった。

(3) プレゼンテーションソフトを活用したコミュニケーション行為による道徳性の変容

話し合いのルールについて、拡大ボードで提示するなどして、学生全員に周知した。話し合いを行っている時に、ルールが分からなくなる面が一部みられたため、ルールを手元で見ながら行った。

話し合いの形態としては、A. 2名での会話(異性同士)、B. 4名での会話(男性2名と女性2名)で実施した。なお、男女の人数比率において調整を行い、話し合いを行った。話し合いについては、3の実践概要で示した通り実施し、アンケート結果から次のような意見が出された。(一部抜粋)

表4 コミュニケーション後のアンケート結果
＜A. 2名での会話(異性同士)＞

(女学生の回答)

- ① 声が聞き取りにくかったけど、相手が目を見て話してくれてよかった。異性同士でしたが、きちんと話せました。
- ② 相手の思いが伝わってきてすごいと思った。
- ③ スライドの作り方がとても上手で、内容が分かりやすく話を聞き入れやすかった。大学に入学した理由、これからについての内容がとても詳しかった。
- ④ 相手の意見を聞けてよかった。質問されるということは、まだ内容がたらなかったのだと思いました。
- ⑤ 一対一なので、人の意見につられることなく、話し合いを行うことができたと思う。
- ⑥ スライドがきちんとまとめられていて、興味のもてるものだった。

- ⑦ 私の間違っている所も教えてくれたのでよかったです。
- ⑧ 「まとめられていた」と言われて嬉しかった。自分の知らなかった事を知ることができたとし、相手が自分の知らなかった所を知ってもらえてよかった。

(男学生の回答)

- ⑨ 互いの夢について語り、尊重し合えることは素晴らしいと思った。
- ⑩ 自分のスライドを伝えるのがこんなにも難しいことだと分かった。でも、話し合いをすることで、自分の作ったスライドをもっとアピールしたいと思えるようになった。
- ⑪ 相手が自分より明確にスライドを作っていて自分がすごく曖昧だと思った。
- ⑫ 相手が考えていることがよく分かった。一対一は結構話しやすかった。
- ⑬ 同じような時期がありとても共感することができた。良い所を教えてくれたので、今度は改善点を教えてほしい。
- ⑭ スムーズに自分の意見を言い、相手の意見を受け入れることができた。お互いのことをより深く知ることができた。
- ⑮ 相手の人の先生になりたいという気持ちが伝わってきてすごいと思った。
- ⑯ 自分の意見や夢をもっていて、自分もしっかりしないといけないと思った。
- ⑰ 自分とは全く違う道を歩んできた人のプレゼンを聞くのは、面白かった。しっかり、プレゼンできた。
- ⑱ 相手の直接の意見がとても新鮮だった。
- ⑲ パワーポイントの内容が分かりやすく伝わった。自分の考えを伝えるのは難しかったが、心境は伝えられたと感じる。
- ⑳ アニメーションを上手く使っていて、伝えたいことがすごく伝わってきた。

表5 コミュニケーション後のアンケート結果
＜B. 4名での会話(男性2名と女性2名)＞

(女学生の回答)

- ① 相手をより比べてしまう。はじめに話した人を基準に考えてしまう。
- ② スライドだけでは分からなかったことが、話し合いの中で分かった。
- ③ 将来の夢についての方向性がしっかりとしていた。人数が増えることで、説明の仕方、声の大きさを変える必要があると感じた。
- ④ 人数が増えることで、たくさん意見が聞け、自分が気付かなかった点を知ることができた。
- ⑤ みんなのパワーポイントに納得できた。
- ⑥ 「野球の指導者になりたい」という気持ちがすごく伝わってきた。

- ⑦ 4人でやると、質問の内容が全く違って面白かった。
違う学科の人も交えてスライド発表して、いろんな方向から考えることができた。
(男学生の回答)
- ⑧ 4人で話し合いをすることによって、2人でやるより緊張もしたし、簡潔に説明しないといけないと感じた。また、異性で考え方が違うと思った。
- ⑨ みんなで話し合うことで、一人ひとりの意見が聞けて、自分のこれからの人生の参考になった。
- ⑩ 4人で話すとなるとどうしても口をはさみにくい時があり、発言できないこともあり、もう少し時間をとって話し合いたいと感じました。
- ⑪ 4人ということで、色々な意見発表内容があり、2人よりも多くの視点から話し合いができた。
- ⑫ 人が多くて周りの声交じって聞こえにくかった。その中で、みんなしっかりと聞いてくれたので嬉しかったです。
- ⑬ 4人で話し合ってみて、それぞれの個性が出るなと思いました。また、男性と女性で考え方もちょっと変わってくると感じた。
- ⑭ 全員が分かりやすいスライドで、皆の将来の夢がよく伝わってきた。
- ⑮ 2人でやるよりも、多くの意見や感想があって、とてもいいことだと思った。
- ⑯ 4人だとどうしても色々な人と自分のプレゼンを比べてしまった。
- ⑰ パワーポイントは人数が多いと伝えやすく、説明しやすかった。

2名での会話（異性同士）の場合、女性において、自分とは違う新しい道徳性（表4③⑨）が伺われる。男性では、相手の思いや夢や希望が強く伝わり（表4⑩⑬⑰⑱）、異なった価値観の話し合いが行え、新たな道徳性を感じつつあることが伺われる。そして、表4⑮⑲のように自分の心境を伝えたり、相手のことを深く知ったりすることで、自分自身と相手が互いに真剣に向き合い、新たな道徳的価値の芽生えが感じられると推測される。

4名での会話（男性2名と女性2名）では、表5①⑩のように、Aの会話の方を支持する意見が出された一方で、表5③④⑦⑨⑪のように、より多くの人数での話し合いの方が、自分の気付かなかった点

を知ることができたと感じられたという意見もみられた。そして、各々のアンケート結果をみると、話し合いの人数が増えることにより、今までの自分自身の道徳性に新しい道徳的価値が触れ合うことで、新たな道徳的価値が構築されつつあることが分かる。また、表5⑬のように異性同士での会話により、男性女性としての価値観の概念の違いが共有されることから、新たな道徳的価値の芽生えと発見につながると思われる。

また、表5⑤からも分かるように、ルールづくりが浸透しているものと思われる。しかし、全体を通じて、ルールづくりが、浸透はしつつあるものの、「会話の時間がたりない」などの意見も聞かれ、深いコミュニケーション行為が十分ではなかったことも考えられる。だが、こうしたルール作りの周知を経ることによって、表5⑥⑭のように、他者からの思いや価値観を互いに真剣に伝えようとする機会が与えられ、新しい価値が共有化され、自ずと以前とは違った価値との比較が生じ、道徳的価値が深まりを見せつつあることが伺われる。

以上のことから、プレゼンテーションソフト活用のコミュニケーション行為により、次の点において効果があったものと考察する。

- ① スライド作成による、自身の歩んできた内容の明確化
- ② スライド提示による自身の思いの簡潔、明確化
- ③ 交互のスライド提示による相手方への共受の念の高まり
- ④ ルール周知による相互主体の価値観への認知
- ⑤ ルール周知による道徳的価値の共有からの自己肯定感と自己意識の高まり

プレゼンテーションソフトを活用し、あらかじめ自分の人生観や思いをスライドに示しておくことで、他者への意思伝達が明確に行えることになる。そして、ルール作りを設けたことにより、他者への人生観と道徳的価値を尊重しつつ、新たな価値を見

出そうとすることができる大きな利点があることが明らかとなった。

(4) 評価するコミュニケーションの割合と理由

では、以上のような効果がみられたコミュニケーションではあるが、学生たちはどのタイプのコミュニケーションを評価するのであろうか。アンケート結果をまとめたもの（一部抜粋）を示す。

表6 <評価するコミュニケーション>

<p><女学生の回答> A：4名</p> <p>① 同性の人に褒められても嬉しいけど、異性の人に褒められた方が、より嬉しい。</p> <p>② 異性を意識することなく話せたから。</p>
<p><女学生の回答> B：9名</p> <p>③ 女性同士では思いもしないことを言うので、新しい発見になる。</p> <p>④ 学科も違って初めて話をした人だったので、少し緊張した。でも、知らない人だからこそ、はずかしがらずに素直にプレゼンできた気がする。</p> <p>⑤ 男性と女性とでスライドの感じ方が違って、いろんな意見を言ってくれるのでよかった。</p> <p>⑥ やっぱり、男性は人のプレゼンに対しての盛り上げがうまいと思いました。発表もしやすかったです。</p> <p>⑦ 違う学科で話したこともない男性だったので、少し心細かった。でも、しっかり会話することができたと思う。</p>
<p><男学生の回答> A：7名</p> <p>⑧ 同性と会話している時に比べて、パワーポイントしっかりつくっているし、考え方もちょっと違うと思いました。</p> <p>⑨ 同性と会話するより緊張した。質問も同性の人とは違う形で聞いてくれるし、会話の仕方というのがぐっと広がった。</p> <p>⑩ 大きなレスポンスを返してくれたので充実感があった。</p>
<p><男学生の回答> B：14名</p> <p>⑪ 意見をはっきり言ってくれて助かった。</p> <p>⑫ 異性は同性とは共感しづらい面があるので、そこを考慮しようと心がけた。</p> <p>⑬ 2名のときより、4名のときの方が人数が増</p>

えたせいか、自分のパワーポイントを意識した。

- ⑭ 女性の方が色鮮やかなスライドをつくり、また、将来の夢が多く書かれていた。
- ⑮ あまり、意識せず会話できた。
- ⑯ 色々な考え方があったと感じた。
- ⑰ 男の考え方とはまた別の考え方でとても参考になった。
- ⑱ 同性異性関係なく、はきはきと話せた。それぞれ、全く違った道で面白かった。
- ⑲ 女性の発表内容は、とても具体的で、何歳に結婚するかなどまで書いてあって、将来のことを細かく考えているなどと思った。
- ⑳ 同性での話し合いより、異性を交えての話し合いの方が、異性がどんなことを考えているのかが分かってよかった。
- ㉑ 何も感じなかった。異性を意識することなく話せた。

評価するコミュニケーションでは、男性女性共にBを選んだ意見が多かった。⑤⑥⑨⑭⑱⑳のように、男女の会話により、同性同士では得ることのできない、違った価値観を共有できることが伺われる。⑦のように、全く関わり合いのない人であっても異性との会話によって新しい価値観が深まったことが分かる。⑲のように、男性からみると、女性の方が具体的かつ、詳細な未来像を描いていることが分かり、男性にとってはまた、違った見方としての価値の共有につながったものと思われる。

Aの会話を評価する意見として、①のように異性に褒められる方が嬉しいといった意見もあり、性の違いによる見方考え方の違いを共有することにより、他者の異性にとっては、広い意味での将来像を描くうえで、大きな道徳的方向性を見出すことができると推測される。

(5) スライド作成とコミュニケーション行為による道徳性の変容

図1は学生が最終的に作成したスライドである。過去を振り返ることにより、現在の自分を考えた様子が、このスライドから伺われる。そして、ハーバースマスコミュニケーション行為を参照したルールをも

<p>小学生時代の自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 習い事、クラブ活動 ▪ 1～4年生 ピアノのレッスン、3～6年生 習字、2～6年生 バスケットボールスポーツ少年団、4～6年生 マーチングバンド、1～6年生 スイミングスクール、5～6年生 テニススポーツ少年団 ▪ 好きな事を見つけれずに毎日を淡々と生活していた。
<p>中学生時代の自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ バスケットボール部、テニス部に所属。 ▪ 中学2年時に優秀な兄や弟と周囲に比べられ、やる気を出さずに研鑽することなく生活を行っていた。 ▪ 中学3年時は、兄と同じ道にいかうとせず逃げかのように別の高校に行くため勉強していた。
<p>高校時代の自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ バスケットボール部、現代視覚文化研究会に所属。 ▪ 電子制御工学科を専攻しPCの制御や情報について学ぶがエンジニアの将来を目指すことができず、両親と同じ教育に携わる仕事をしようと考え教職関係の大学にいかうと決意する。 ▪ 自分の将来を考え始めやりたいことが出てき、未来に向かって切磋琢磨していかうと考える。
<p>現在の自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 小学校教員免許を取得して小学校教員になるため公務員試験を合格することを目標とし、日々努力している。 ▪ 昔は優秀な兄や弟を羨ましく思っていたが、自分の考えを持って兄や弟とは違う考えをもった大人になっていかうと考えている。
<p>心境の変化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 芯の強い子に育ってほしいと名づけられたが、小学校～高校2年までは自分に自信がなく事なかれ主義を貫いてきた。しかし、高校3年になって「自分とは何なのか」と考え出し、自分は何になりたいのか、自分はどういう職業に就きたいのかと考え、「教師になる」という夢を見つけ出し、これだけは逃げずに立ち向かっていかうと考えた。 ▪ 今の自分になるために、たくさん叱ってくれた両親に感謝している。

図1 学生によるスライド作成の一例

とにしたコミュニケーション行為実施後、「心境の変化」の項目を設け、最後には、「今の自分になるために、たくさん叱ってくれた両親に感謝している」旨を述べており、家族への感謝という道徳性が培われたことになる。なお、校種ごとに過去を想起したことで、歩みを整理、省察することができ、今日の自分を見つめ直すことに繋がったものと思われる。そして、本ルールづくりのコミュニケーション行為により、「羨ましく思っていた兄に対し、自分自身の考えを持つことができた」という記載があり、自己の意志決定と自己肯定感の高まりが伺われる。これは、自他を互いに認め合うことで、良さに気づき、新たな道徳観と自己肯定感に変容した表れであろうと推測される。また、約80%近くの学生が、スライド作成時において、「思慮・反省」「夢・希望」といった道徳性が見受けられ、今までの自分を自己省察することで、自ずと脳と心の中において、現在の自分と過去の自分を比較したものと思われる。そして、コミュニケーション行為を行うことで、新しい価値が入り、脳と心の中で価値葛藤し、本来自分自身もっていた道徳的価値に変化が生じたものと思われる。

5. 全体考察：成果と今後の課題

全体を通じて、「嬉しかった言葉がけ」として、次の意見が得られた。(一部抜粋)

表7 <コミュニケーション行為での嬉しかった言葉がけ>

<p>(女学生の回答)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分では、あまり情報がないので駄目かと思っていただけ、見やすいと言ってもらえて嬉しかった。 ② 話を聞いているときに、「うん」「すごい」などの言葉が嬉しかったです。 ③ 分かりやすいスライドだった。 ④ レベルが高いと言われた。きちんとつくったやつだから嬉しかった。
--

- ⑤ 自分の作ったパワーポイントに注目してくれて嬉しかった。興味関心をもってくれた。
 - ⑥ 最後に、「いい内容だな」とか、「いい教師になるな」と言われたとき。
 - ⑦ 自分の素直な思いが出ていて良かったと言われた。
 - ⑧ 子どもの頃や将来の夢について褒められ、認められた感じがした。
- (男学生の回答)
- ⑨ 気持ちが伝わってきた。きちんと伝わってきた。
 - ⑩ 「画像が見やすかった」と言われたこと。
 - ⑪ 自分の過去を理解してくれて、頑張って作ったスライドを評価してくれた。
 - ⑫ 簡潔で分かりやすいプレゼンだと言われた。
 - ⑬ 目標をきちんともっているとされた。
 - ⑭ 言葉が少なかったが、一つ一つ説明して、うなずいてくれ、聞いてくれたこと。
 - ⑮ 教師になる理由が明確になっていて良かったと言われた。
 - ⑯ 自分の野球人生のことを聞いてくれて、理解してくれたこと。

以上のように、約50%が「自分のスライドやプレゼンの仕方について褒められたこと」など、スライド作成に関する喜びに関する記述だった。中には、初めてスライドを作成した学生もおり、自分の作成したスライドが褒められることにより、「認められた」という実感がわいた(④⑤⑩⑫)ようであった。

また、約50%は、コミュニケーション行為についての記述であり、頷きや「すごい」等の言葉がけにより、嬉しい気持ちになったことが分かる。こうした、褒められる言葉がけが、自分自身が認められたという気持ちになり、コミュニケーション行為による自己肯定感の向上にもつながると思われる。(②⑧⑬⑮⑯)つまり、ハーバーマスの言う了解を目標にしたルールを基にコミュニケーション行為を行うことで、互いに納得のできた内容については、周囲からはっきりと認められるため、この認められるということが、自分自身の心の中に自己意識の高まりと自己肯定感を向上させたものと思われる。

本研究では、2種類の形態<(A:2名での会話「異性同士」)、(B:4名での会話「男性2名と女性2

名)>でのコミュニケーション行為を行って検証し、Aの会話より、Bの会話の方が話しやすく、自分の将来のための参考になるといった意見が多く挙げられた。理由としては、「①同性がもう一人いると話しやすい。」「② 異性が2人いると新しい発見になる」「③ 男性2人、女性2人の4人ぐらいが話しやすい」ことが考えられる。(表5⑪⑫)Aの会話の場合、「異性同士なので、同性では考えることのできない道徳的価値があり、評価する」という意見がある一方で、「男女が一对一であるため緊張した」という意見もみられた。そして、4人以上となると、「多すぎて話しにくく、自分の価値を理解してもらえない」との意見も感じ取れた。(表5⑨⑭及び全体)以上から得られたように、コミュニケーションの人数、形態によって、道徳性が大きく変容することが予想される。学生たちのアンケートの意見から読み取ると、4人という人数が話しやすい人数であり、男女2名ずつという会話が心地よく感じられ、自己意識が高まっていくものと思われる。その結果、道徳的価値も深まる割合が増え、強い夢や希望をもてるようになるだけでなく、「努力・不撓不屈」「感謝」へとつながってくる。そして、コミュニケーション行為がなされ、互いに認め合えることで、「信頼友情」あるいは、「愛」をもった心へと変容していくことが分かる。また、スライドを作成する過程の中で、自分の生まれた故郷を振り返ることから生まれる「郷土を愛する心」も感じ取れていたように思われる。そして、こうした「愛を抱く道徳性の向上」が人や自然を尊重し、生きているものへの感謝と尊厳の心へと変わっていくと思われる。本講義を終えて、学生達の心の中には、「これからもっと頑張らねば」という思いとは別に、これまで生かして頂いたことへの感謝の念が培われつつあると思われる。

まとめにおける、「どのような会話ができれば、自己価値が深まるか」という質問に対して、

- ・自分の意見をきちんと相手に伝える。意思を相手に伝える。目を見て聞く。相手の考えを受け入れる。
- ・頷くなどの反応を見せる。正直な気持ちを伝える。
- ・褒め言葉や指摘を多く取り入れる。
- ・質問が多いほど、興味をもっていることになる。互いにアドバイスし合えばよい。
- ・相手の気持ちを考えながら、お互いに良いところや悪いところを言い合い、互いに認め合う。
- ・意見に対して、考える、理解する。
- ・何故、そのように思ったのか、相手の気持ちや心情を読み取りながら、質疑応答する。
- ・4人でやる方が、意見が割れたとき、客観的、中立の立場となり、話し合いがうまくいく。

といった意見が得られ、自分の思いを最大限に伝え、理解し合うという意見が多くみられた。このことは、相互関係において、自分の思いを納得のいくまで理解し合える関係を築くことで、意思の疎通が図られ、ハーバーマスの言う「了解」に近づくこととなる。そして、ただ単なる話し合いに終わることなく、互いの意見を尊重し、認め合うことで、自己肯定感も向上し、道徳的価値も高いものとなる。すなわち、道徳的価値が多面的に価値葛藤と共有されることで、本来各自がもっていた道徳的価値観が新しい価値へと変わり、改めて自己の生き方を見つめ直すことにより、道徳観だけでなく人生観、教師としての職業観も大きく変わってくる。

また、本研究において、パワーポイントを使用し

たコミュニケーションにより、自分の伝えたいことを明確に伝えることができたため、プレゼンテーションソフトの利便性について学生から高く評価されていた。

本研究では、以前にも述べたように、異性同士でのコミュニケーション行為を行うことで、B：4名での会話「男性2名と女性2名」でのコミュニケーション行為が話しやすく、道徳的価値も変容し、自己肯定感が向上することが明らかとなった。

このことは、互いに尊重し、認め合うといったことで自己肯定感の向上につながると思われる。そして、互いのことを理解し、認知することで、他者の人格を敬うことにつながる。

前述のとおり、本講義においては、学生達が互いに尊重し、認め合うことで、人間関係も良好に保ったまま会話することができた。その結果、より一層の職業観、将来像への強い目標と夢を抱くこととなった。

しかし、今日の日本社会では、コミュニケーション不足により、他者のことを理解、認知することが困難となりつつある。こうした課題により、他者の人格をも認知することが否定的になり、他者を敬う生命尊重の視点から、道徳教育を根底から見直し、コミュニケーション行為の充実を図っていくことが重要であると指摘する。今後、さらなるコミュニケーション行為のあり方と道徳性の向上に向け、研究を深めていく。

註

- 1) 高橋勝『子どもの自己形成空間』河島書店、1992、8頁
- 2) P.ラングラン、波多野完治訳『生涯教育論』参照
- 3) 湯浅誠「生活困窮フリーターたちの生活保護」『世界』2006年12月号
- 4) 湯浅誠「若年ホームレス」本田由紀編『若者の労働と生活世界 彼らはどんな現実を生活しているか』
- 5) ハーバーマスの議論については、以下の文献を参照

ユルゲン・ハーバーマス, 三島憲一, 中野敏男, 木前利秋訳『道徳意識とコミュニケーション行為』岩波書店, 2009 (第4章)

- 6) 渡辺満「〈こころ〉の教育と学校の道徳教育の諸課題」人間教育研究協議会『教育フォーラム47』金子書房, 2011, p.28 ~ p.37

参考文献

- ・ユルゲン・ハーバーマス, 藤沢賢一郎ほか訳『コミュニケーション的行為の理論 (中)』未来社 1986
- ・藤原保信, 三島憲一, 木前利秋編『ハーバーマスと現代』新評論 1987
- ・中岡成文『ハーバーマス コミュニケーション行為』講談社 2009
- ・作田啓一『価値の社会学』岩波書店 1972
- ・浮世満理子, 水島広子, 諸富祥彦『聞く技術 話す技術』マルコ社 2012
- ・永野則雄『批判理論と会計理論 (2・完) : ロッホリンによるハーバマス理論の適用』法政大学 1995 p.77 ~ p.85
- ・渡辺満『コミュニケーション行為理論による道徳教育の可能性』兵庫教育大学研究紀要第19巻第1分冊1999